

令和5年度 小中一貫教育校報告書 似島小中一貫教育校

1 学校の課題

本校は、いきいき体験オープンスクール制度を実施しており、似島の豊かな自然を活用した体験活動や小規模校ならではの個に応じたきめ細やかな指導等に魅力を感じて、島外から通学してくる児童生徒が多数(全校児童28名中21名、全校生徒32名中30名)を占めている。また、小中一貫教育校であるが、中学1年生から転入してくる児童が8割を占める。島外から通学してくる児童生徒や、転入してきた中学生にも、似島の魅力に気づかせ、似島「も」もう一つのふるさとであるという思いをもって、より良い地域づくりに貢献させたい。

2 研究主題

探究のプロセスを意識した体験学習の充実
～気づく、深める、発信する～

3 取組内容

1 地域教材を活用した「ふるさと科」の学習過程の工夫

- ・ 学年ごとに地域の題材から「中心となる探究テーマ」を定め、探究的な学習を行った。
- ・ 学習したことをまとめ・表現する場を設定し、児童生徒に「相手意識」「目的意識」を持たせて学習を進めた。

【小学校1・2年生探究テーマ 似島の町】



似島町探検



文化祭劇



文化祭掲示物



遠隔授業

町探検で学んだ内容をもとに劇の台本を作り、文化祭で発表した。また、遠隔授業で、阿戸小・戸山小の1・2年生に向け、町探検で学んだことや体験学習で学んだことを発表した。

【小学校3・4年生探究テーマ 似島とカキ】



カキ打ち体験



文化祭劇



文化祭掲示物

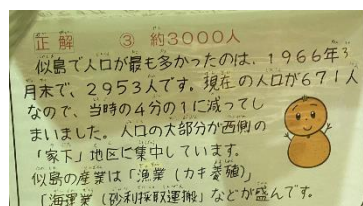
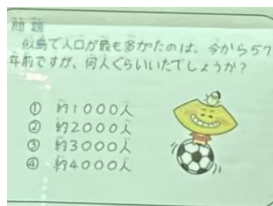


カキの成長の過程や、似島にあるカキ業者を調べたり、カキ打ち体験をしたりして学んだことをまとめ、文化祭で発表した。

【小学校5・6年生探究テーマ 似島のよさ】



タブレットでの学習風景



文化祭掲示物

体験活動を振り返りながら似島について調べた。次に調べた中から1つテーマを決め、クイズ形式にして文化祭で掲示した。

【中学校1年生探究テーマ 福祉】



福祉体験の様子



福祉体験新聞作成



小学生に伝えている様子

福祉体験で学んだ内容を、グループに分かれ、ポスターを作成し文化祭で掲示した。また、小中合同朝会で学んだことを伝える機会をもった。

【中学校2年生探究テーマ 平和】



平和学習のようす



碑めぐりで中学1年生・小学3・4年生を案内しているようす



平和学習では、中学1年生で学んだことを思い出しながら、興味をもったことについて調べていった。調べたことをまとめ、中学1年生や小学3・4年生に向けて、学んだことについて遺構巡りをしながら伝えた。

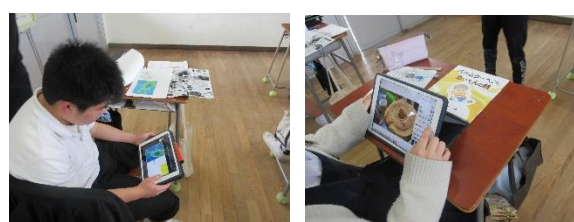
【中学校3年生探究テーマ 船釣り】



船釣り体験の様子



魚をさばいている様子



タブレットを使ってまとめている様子

船釣り体験の後、似島で学んだ3年間のまとめとして、1人1つテーマを決め、ふるさと科の学習を通して、学んだことをまとめた。

2 地域教材を活用した「ふるさと科」の体験活動の充実

- ・ 似島について知り、似島の魅力に気づくことができるよう、似島を活用した体験活動をたくさん行った。また、中学1年生は新しく島外から入学してくる生徒が大半を占めるため、中学1年生は似島について知ることに再度重点を置き、ふるさと科の学習をした。



【小】安芸小富士登山



【小】たけのこ掘り



【小5・6年】海カヌー



【小】釣り



【小】バウムクーヘンづくり



【小1・2年】似島北回り



【中】牡蠣打ち体験



【中】野外研修(釣り)



【中】野外研修(登山)



【中】たこつぼ漁体験



【中】竹林整備



【中】竹クラフト

【令和5年度の新しい取組】ワカメ収穫・調理



ワカメ収穫



ワカメ調理

3年間を見通した活動として、ワカメ収穫・調理を実施した。

3 ふるさと科の充実に向けた研修

【似島小中一貫教育校学校デザイン研修(R5.7.31)】

似島小中一貫校が抱える課題について、グループに分かれて協議し、課題改善に向けて取り組む計画を立てた。また、今年度の反省をふまえて、次年度以降の学習計画の検討をした。

〈課題改善に向けて取り組むこととして、主に次の3点が挙げた。〉

- ・ 体験活動のねらいの検討・整理
- ・ 円滑な引き継ぎができるように、ふるさと科の学習の成果物の蓄積や教員の準備物のデータ化
- ・ 中学3年生の探究的な学習のテーマや学習過程の見直し

4 検証結果

【ふるさと科アンケート結果について】

| アンケート内容 | 肯定的に答えた児童生徒の割合 | |
|-------------------------------------|----------------------------|----------------------------|
| | 小学生 | 中学生 |
| ①「相手意識」「目的意識」を持ってふるさと科で学んだことを伝えている。 | 90% → 86% (R4年度) (R5年度) | 58% → 92% (R4年度) (R5年度) |
| ②ふるさと科の学習を通して似島への愛着を感じている。 | 96% → 96% (R4年度) (R5年度) | 63% → 92% (R4年度) (R5年度) |

①、② のどちらの項目に関しても、小中学生ともに 85%以上を上回ることができた。中学生に関しては、①については 58%から 92%、② については 63%から 92%と大幅に改善が見られた。

【探究テーマのワークシートの記述について】

〔似島町探検(小学1・2年生)〕

- ・ 似島にはいろんなお店があると知って似島を好きになれた。
 - ・ 似島のまだ探検していない地域のお店も調べたい。
- 似島の町を探検したり、お店の人にインタビューをしたりすることで、似島がもっとすきになったという記述が見られた。また、似島についての興味関心が高まり、他の地域やお店にも行ってみたいといった記述が多く見られた。

〔平和学習(中学2年生)〕

- ・ 「問題づくりのとき、いろいろ調べて実際に行ってみて前よりも深く知ることができた。」
 - ・ 「遺構めぐりのときに、中1とも小3・4とも話せて良かった。」
- 中1や小3・4の児童生徒への発表に向けて準備していく中で、平和への理解がより深まったという記述が多く見られた。また、異学年と楽しく交流することができたという記述も見られた。

5 研究成果

1 探究的な学習について

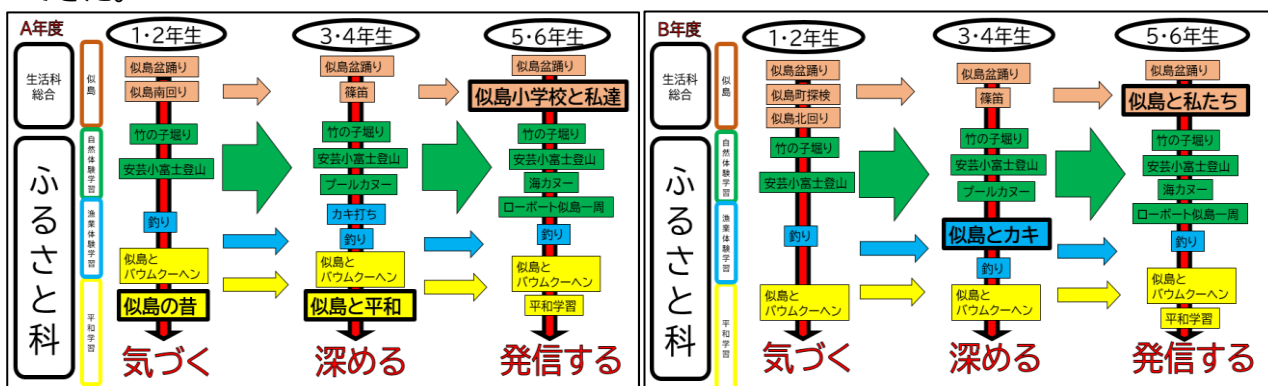
学年ごとに中心となる探究テーマを定めることで、学習活動の時間を十分に確保することができ、探究的な学習を深めることができた。また、学んだことをまとめ、小中合同文化祭や小中合同朝会で発表した。学ぶだけで終わらず、学んだことを発表する場を設けることで「相手意識」「目的意識」をもってふるさと科で学んだことを伝えているとアンケートで答えた児童生徒の割合が85%以上を上回ることができたと考えられる。

2 地域教材を活用した「ふるさと科」の体験活動の充実

昨年度に引き続き、似島を活用した体験活動をたくさん行った。また、学年ごとに中心となる探究テーマを定めて学習したことで、似島のことをより深く知ることができ、似島への愛着を感じている児童生徒の割合が増加したのではないかと考えられる。また、「ふるさと科の学習を通して似島の魅力を発見できた。」という問いに対して、肯定的に答えた児童の割合は100%、生徒の割合は96%と高い割合を示していた。このことから、似島に愛着を感じている児童生徒が多くいると考えられる。

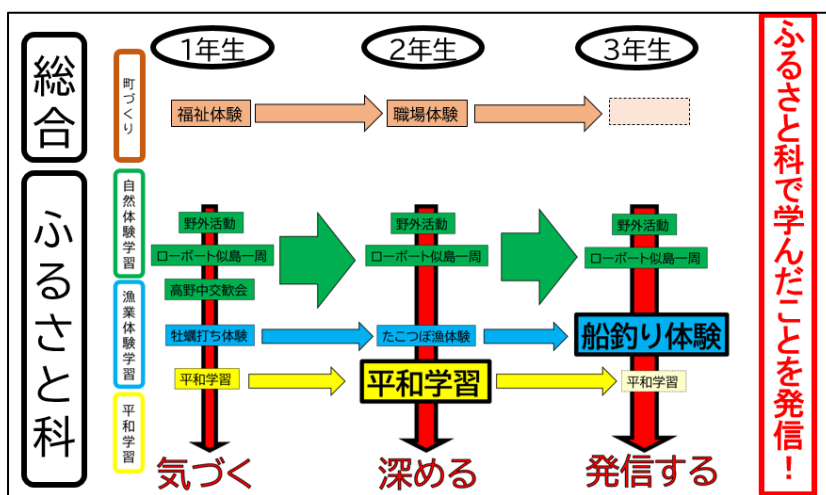
3 ふるさと科の充実に向けた研修について

現在の似島小中一貫教育校の課題が明確になり、今後取り組むべきことが整理され、見通しをもったり、次のような、総合的な学習の時間やふるさと科のカリキュラムを改善したりすることができた。



小学校

総合的な学習の1つの柱(町づくり)とふるさと科の3つの柱(自然体験学習・平和学習・漁業体験学習)をテーマに学習を進め、集大成として、中学3年生の発信する場をもつというカリキュラムを作成することができた。



中学校

